宗像

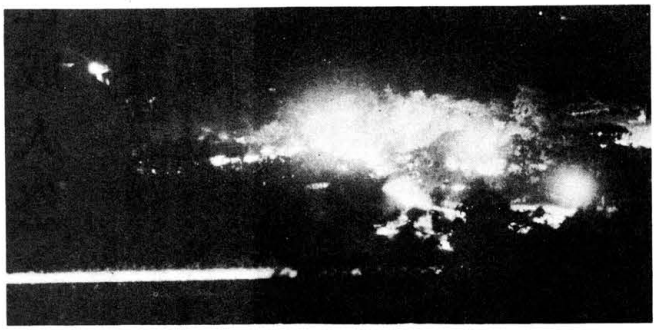
毎月一日発行
定価一年 送料共500円
発行所
宗像大社社務本局
福岡県宗像郡玄海町田島
電話 神湊 26 番

正月祭斎行

―宗像不夜城を出現―

車・車・車……

大晦日から寒波が襲来した。雨が降ったりやんだりして元旦の人出が危ぶまれたが、それは全く杞憂であった。当宮への参拝者は殆んどが自動車御祈願であり、元旦といえどもそれには変りない。大晦日の零時、釣川の県道には何処までも自動車のライトが続き、飛行場のような爆音が轟いて、例年に劣らぬ不夜城を現出した。釣川の反対側の鎮国寺の山にこの夜景を撮影する為に、登った職員が興奮して帰って来た※



写より山上鎮国寺前○時頃 一日午前中央は境内、下の直線は釣川ぞいの車のライト

※「すうーっと続いて綺麗ですよ」といったこ言にすべてが尽されていた。

元旦祭を斎行した午前六時頃には社頭は身動もも出来ない程混雑していた。

今年から宗像署の警官のほかに地元の消防団の方々に社頭の自動車を整理するために御奉仕をお願いした。土地の人ではあり、お宮の地形状況等をよく知っている為に、自動車を誘導配置するわ方が実にスムースで、自動車による混乱が全然見られなかったことは特筆すべきことであった。

一日中お天気の日は正月五日迄の間に四日の日だけであった。あとは時雨にみぞれ混り、或いは雪といった按配であったが、当宮の初詣で参拝者の数は当初予想していた通り、昨年を上廻ると正確に二割五分であった。特に、三日迄は個人の参拝が多く、御用始めの四日以後は団体バスや、職域参拝が目立った。

交替で交通警戒に当っている宗像署員の話によると、今年の初詣では一般に例年の約半分、殊に「足場の悪い」所ではその影響が大きいように見受けられるのに、宗像さんだけは別じゃね、ということであった。

かくて不夜城に明けた宗像大社に、今年も一年中御祈願の自動車が続くであろう。

宗像大社御用達
祭神装束具興
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話 (37) 八八六九番
振替口座京都一五八九一番

第六回 宗像マラソン挙行

一面の銀世界、寒風吹きすさぶ一月廿七日、恒例の「宗像マラソン」が決行された。

集る者五十五名、郡内外の青年と郡内中学生の諸君、何れも紅頬元気一杯の頼もしさである。

午前十時、宗像大社拝殿脇に整列して発会式を行った。宗像陸連会長と大社権宮司の祝辞挨拶があって、改めて優勝を受けた。

先ず中学生の組から神門前のスタートラインに立った。純白の新雪を蹴立てた一団が大社北方牟田尻部落の折返し地点に向って出発した。

終ってから発会式場に再び整列宗像陸連会長、岬小学校の日並校長から「未曾有の天候条件による敢斗」が称えられ、賞状賞品の授与があって無事終了した。

尚当日の成績次の通り。

○一般学生の部
一位 福盛祐三（大濠高校）
二位 木村良哉（〃）
三位 秋吉多俊（〃）

○一般の部（郡内）
一位 平川恵一（宗像町）
二位 三中正勝（福間町）
三位 西本安夫（宗像町）

○青年の部
一位 船越博明（玄海町）
二位 神光春（福間町）
三位 松尾正勝（〃）

○中学生の部
一位 早川邦彦（玄海中）
二位 友納実男（〃）
三位 花田正興（中央中）

論説 男性宗像 その二

史上に起る避け難い風雪は人間の意志を全く無視して、好むと好まざるとに拘らず人間を塗炭の苦境に追い、起ち上る力と魂を持つ者のみを浮ばしめた。そこに浮ぶ者のみが次代を創る適格者であり、次代を建設する俊秀を養成する指導者である。歴史は人間を創造する、人間は歴史を創造する。

男性宗像を創造したものは宗像一郷が幾星霜、血と汗で綴った宗像の歴史である。その中に流れ来った一郷特有の気風である。東西南北ともに約二十粁、渺たるこの僻辺の一角ながら、我が民族国家形成に極め尊貴な意義をもつ宗像大社を鎮座の聖地とし、これを軸心として伝承する美風は男性宗像を創造する十分の条件を具えていると言っても過言であるまい。

名ある傑物たると無名の指導者たるとを問わず、明治以降現代に亘る男性宗像を育てたのである。

ならば一郷の美風たる純朴正直勤勉の精神的遺産は、美しい環境の中に宗像大社を護持してよく団結をわず、互譲互助の神訓を敬仰した宗像人士の胸奥に生きていると、敢えて強調するを得よう。

今こゝに一郷の美風を代表する幾多の男性宗像を詳述したいと筆を執ったのだが、政界財界教育界等に名を成した俊秀列伝を挙げれば、三文雑誌の提灯持ちの感なきにしもあらずというところで、暫く抽象的記述をお許し願いたい。言わずもがな、お歴々の事は郷土人士のよく知るところでもある。こゝでは一郷伝承の美風を生かし、男性宗像のために気を吐く数氏の横顔を描くに止めたい。

男子の一語を重んじて建築資金の不如意から給金一文も支払わない依頼者のために、やっと屋根を葺いたばかりの半家屋の鈎層の中に寝ること二十日間、妻子の待つ家庭に給金を持たずには帰れなかった一介の大工ながら約束を守れなくなった相手の窮状を察して、自らは約束通り仕事を続けて刻苦精励した。やがて立派に建築が成った。依頼者はこの人に感謝と信頼を強めたこと言うまでもない。彼は十餘年前何等縁故者もない大阪に出た人ではあるが、世間はその誠実な人柄を高く買った。今建築会社の社長として隆々たる業績を挙げている。「金もうけをしようと思ったことはない。信用を事業の資本としている」との述懐がまことに嬉しい。

学校を出たばかりの青書生に全幅の信頼をかけて、或る奇人が興家に給金を与えた。何の血縁もない全くの他人に、又事業経営の経験もない白面の青年に莫金を投ずる人はまさに奇人であろう。これを黙って受けて事業精進を恩返しと心得た青年も亦凡庸でない。幾多の難苦を克服して事業はめざましい発展を遂げ、恩返しはその業績の偉観を以って見事に酬いられた。「人間尊重が萬事の出発点だ。次代の国家民族の繁栄を担う若い人に多大の信頼をかける」との信条は男性宗像を貫く足る弟妙の言であろう。

最も好きなものは、愛国心と誠実である。

幅の信頼をかけて、或る奇人が興大な事業資金を与えた。何の血縁もない全くの他人に、又事業経営の経験もない白面の青年に莫金を投ずる人はまさに奇人であろう。これを黙って受けて事業精進を恩返しと心得た青年も亦凡庸でない。幾多の難苦を克服して事業はめざましい発展を遂げ、恩返しはその業績の偉観を以って見事に酬いられた。「人間尊重が萬事の出発点だ。次代の国家民族の繁栄を担う若い人に多大の信頼をかける」との信条は男性宗像を貫く足る弟妙の言であろう。

最も好きなものは、愛国心と誠実である。

ある青年、純白の花。最も嫌いなものは権謀術策虚偽。これは或る大会社を経営する宗像人が週刊誌に答えた言葉である。この人が社長に就任した頃、当時のマスコミや財界人はその人柄の誠実一路は高度の倫理教育が発見されたものである。踊来十数年誠実と勤勉は事業面に芳ばしき純白の花を咲かせた。今は文字通りの誠実一路を軽視するものはない。「経営のコツは誠実和信実行である」との強調は、これも宗像一郷の気風が育てた男性宗像の典型として挙げられよう。

その外にも有名無名の男性宗像が枚挙されるが、一郷の特性を具現する群像は紙面の都合もあって述べられない。明治二十餘年に始まった宗像会は戦前迄会誌を発行してきたが、その内容は現代宗像人物史でもある。これを読めば宗像が公衆の秩序ある生活を肯定し、多数の幸福を自己の幸福の前提として考えている。これが教育の基礎にあり、社会改善の出発点でなければならない。○人はいつか皆死んでゆく。然し生きているが故に生きている意義を生活面に充分表現したい意欲が発生する。スターリン批判を許容するフルシチョフの弁明は、独裁の共産主義巨頭の一歩前進と受取れるか。○さもあらばあれ、ここは大学の事務室、学生は自分一人で教育したかの如く放言する教授、こちらは百屋の店頭、会社は自分の主人独りが切り廻しているかの如く、自惚する課長夫人。今頃学生は面白くもない講義をするこの教授をこきおろして下宿で南京豆をかじっているだろう。課長は上役に叱られた不始末に憤然爪を噛っているだろう○女房を堕落させるのはおやじである。細君がおやじを誤らせる場合も少なくない。「咲さんちょっと」は単なる漫談でない。夫婦揃ってこのテレビ放送を見てはどうか。詳しくは考えてみる必要もあるまい。

（白雲）

阿蒙少言

バスの中「賃上げ斗争流行の世の中、食うために戦うと言えば人間と動物とどこが違うのでしょう」との問。「人間は独りだけが幸福になることは出来ない、他人の幸福を考えねば、自分の幸福はあり得ない、これが動物との違いだ」との答○蹙情は徒らに妥協することを許さない。妥協は救済でない。詐欺横領もろもろの人間悪に言い訳はあろう。無責任の迷蒙を蔽いてこそ、真の救がある。真の救には厳しい処断が必須。詳しくは自ら考えてみる外はない。○金力のコース、権力のコースやがて悉く滅びて力の限界を知らしめる。独り蹙情のみ淵落の秋を知らぬ。歴史を学ぶ意義はそこにある。○啓任ある人間の善意が公衆の秩序ある生活を肯定し、多数の幸福を自己の幸福の前提として考えている。これが教育の基礎にあり、社会改善の出発点でなければならない。○人はいつか皆死んでゆく。然し生きているが故に生きている意義を生活面に充分表現したい意欲が発生する。スターリン批判を許容するフルシチョフの弁明は、独裁の共産主義巨頭の一歩前進と受取れるか。○さもあらばあれ、ここは大学の事務室、学生は自分一人で教育したかの如く放言する教授、こちらは百屋の店頭、会社は自分の主人独りが切り廻しているかの如く、自惚する課長夫人。今頃学生は面白くもない講義をするこの教授をこきおろして下宿で南京豆をかじっているだろう。課長は上役に叱られた不始末に憤然爪を噛っているだろう○女房を堕落させるのはおやじである。細君がおやじを誤らせる場合も少なくない。「咲さんちょっと」は単なる漫談でない。夫婦揃ってこのテレビ放送を見てはどうか。詳しくは考えてみる必要もあるまい。

（白雲）

第三回 宗像大社献詠歌会詠草

一月六日於社務所詠草到着順

神紋の楮の葉形のこの大石に神郡内の万葉歌を彫る　津屋崎 麦野 時雄

京都 鈴木日出年

ためしなき大豊作の稲田より根引きの初穂神に供えつ　南郷 村山田 吉田佐市郎

列して発会式を行った。宗像陸連会長と大社権宮司の祝辞挨拶があって、改めて優勝を受けた。

先ず中学生の組から神門前のスタートラインに立った。純白の新雪を蹴立てた一団が大社北方牟田尻部落の折返し地点に向って出発した。

終ってから発会式場に再び整列宗像陸連会長、岬小学校の日並校長から「未曾有の天候条件による敢斗」が称えられ、賞状賞品の授与があって無事終了した。

尚当日の成績次の通り。

○一般学生の部
一位 福盛祐三（大濠高校）
二位 木村良哉（〃）
三位 秋吉多俊（〃）

○一般の部（郡内）
一位 平川恵一（宗像町）
二位 三中正勝（福間町）
三位 西本安夫（宗像町）

○青年の部
一位 船越博明（玄海町）
二位 神光春（福間町）
三位 松尾正勝（〃）

○中学生の部
一位 早川邦彦（玄海中）
二位 友納実男（〃）
三位 花田正興（中央中）

宗像大社御用達
祭神装束具興
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話 (37) 八八六九番
振替口座京都一五八九一番

毎月一日発行
定価一年 送料共500円
発行所
宗像大社社務本局
福岡県宗像郡玄海町田島
電話 神湊 26 番

宗像大社成人祭

本年の成人の日は例年にない寒波が来襲、それにも拘らず、雪まじりの寒風の吹きつける中を宗像郡玄海町成人男女一七八名、他関係者米寳参列のもとに午前九時、辺津宮に於て、厳粛に祭典が斎行された。

厳粛積雪の中で、斎主祝詞奏上に引続き、成人男女の代表が、神恩を感謝して玉串を奉奠、祭典が終了すると、列席者全員に御神酒御神菓が授与され、町当局の心づくしの記念品が配布された。

次で大社隣接の田島小学校講堂に於て式典を挙行。式典後、当社権宮司の記念講演が行なわれた。

また大島中津宮に於ては午前十時、宮司以下職員奉仕のもとに祭典開始、島内成人三二名、父兄関係者列席のもとに厳粛に斎行された。其後、宮司より社頭挨拶が行なわれ、成人の御祝として御神酒授与品を頒布。玄海の祭涛さながら天候の中で目出たく終了した。

引続き十一時から公民館に於て記念式典熟行、十一時半から成人男女全員参加の島内一周駅伝マラソンが行なわれ、若人の発展と意気に燃えた一致団結の精神が培われた。

また辺津宮では、玄海町成人祭郡玄海町成人男女一七八名、他関係者米寳参列のもとに午前九時、辺津宮に於て、厳粛に祭典が斎行された。

また辺津宮では、玄海町成人祭郡玄海町成人男女一七八名、他関係者米寳参列のもとに午前九時、辺津宮に於て、厳粛に祭典が斎行された。

進み、一同に代り神恩に感謝の誓いの詞が誦まれた。

一行退社の折、玄海町対抗駅伝競走の成人とめぐり合い、御互いに手を振り合って別れていった様子が印象的であった。

二月祭事表

一日　月次祭　午前十時

三日　節分祭　午前十時

正月も終り、冬籠りの季節が過ぎ、いよいよ実際の仕事を始めるに当って厄除けのお祓いをする行事。各家庭に於ても福豆を撒いて「福は内鬼は外」と唱える。

十一日　建国祭　午前十一時

もとの紀元節祭。わが国の建国の起源を想起し、国民のつとめと幸福を考える日。

十五日　月次祭　午前十時

二月の交通訓

運転手さん、安全運転にすべてがかけられている。

宗像談話室　意地っ張り

O先生のチョークが飛んだ。二センチ程の白い固まりがA生徒の頭にハッシと当った。脇見をしていたAが吃驚してO先生の方を向いた。

「こらっ、よそ見をしとって先生の教えることが頭に入るとかっ、よう勉強しとかな、あとできっと困るぞ！」

O先生とA生徒の視線が一瞬空間で火花を散らした。――と、見る間にAの目に涙が溢れた。そして涙の溢れたままの目がなおもO先生を睨みつけている。

「A！お前は先生いうとることが分らんとか、もういい、出て行け、帰れっ」

O先生も若かった。三十年も前の事である。今はO村の村長をしているOさんは、その頃小学校の教師をしていた。

純朴な村の子供達を教えていたが、中にはAのように相当の悪ぞう（きかん坊）がいる。漁村として成り立っている土地柄だけに村人には一本気な所がある。事の善し悪しなどよりも、何かにかかわり合ったら〝意地〟だけが心の支えになる、といった傾向が強いA。もその気風を受け継いでいた。

O先生は、しまった、と思ったA。Aの父親が村会議員であることが先生の脳裏をかすめた。あとが面倒になるのではないかな、叱らなければよかった、と思った。

Aはすっくと立ち上り、くるりと後を向くと、さっさと教室を出て行った。ピタン、と戸を締めた音が胸にこたえた。

「教師としての意地がある」とは思うものの、複雑な気持が去来した。

それ以来、先生は一寛という字を教室の後側に貼りつけて自らのいましめとした。手練のチョーク投げは見られなくなった。

約十年経った。軍隊にいるAから突然手紙が来た。下等兵選抜試験の時に学科で苦労したので、先生がチョークを頭に投げつけたことを思い出し、もっと勉強すればよかった、先生の御恩が身に泌みる、という文面であった。

昭和十七年頃、Aが出征前に一時帰郷した。彼ら歓送会の席上で、酔ったAがO先生に何回も盃を差し出した。酔ってそして泣き笑い――

終戦後、先生は教師をやめて村長になった。用務で度々上京した。その度にOさんは靖国神社に参拝した。どんなに忙しくても、寸暇をさいて参拝した。

大鳥居をくぐると、Oさんの眼前に戦死した教え子の顔が四人、五人と浮かんで上る。その真中で、あのAが大きな目に涙を浮かべてOさんを見つめている。

「人間は意地っ張りでなくてはいかんなあ。Aは村一番の意地っ張りじゃった。村で第一番目の戦死者あったのも、一本気な意地っ張りのせいであったと思う」

今の先生な、生徒と友達のごとく（様である）意地っ張りな人間を仕立ててほしいのじゃが――いや、今のわたしにはチョークを投げつける元気は無いばって。

Oさんがここまで話した時、皆が大笑いになった。

続けられる。同年ではないが「昔の先生」の故をもってOさんはそれらの全部に出席しなければならない。A生徒のこと、靖国神社のことが席上で語られることがある。皆無条件でそれを聞いている。

「人間は意地っ張りでなくてはいかんなあ。Aは村一番の意地っ張りじゃった。村で第一番目の戦死者あったのも、一本気な意地っ張りのせいであったと思う」

今の先生な、生徒と友達のごとく（様である）意地っ張りな人間を仕立ててほしいのじゃが――いや、今のわたしにはチョークを投げつける元気は無いばって。

Oさんがここまで話した時、皆が大笑いになった。

古式ゆかしいお座

客年十二月十五日、午前六時、早暁の寒気のなかで恒例の古式祭が執り行われた。

この祭典は既報の通り七百六十一回目に当ると云われている。祭典終了後、潮明殿に於てお座が開かれた。お座と云うのは、神前に供えられる神饌（神様のお食事）と同じもの――永い伝統を持つ愛餅、九年母（クネンボ、蜜柑の一種）ゲバサモ（浜で採れた海藻の一種）――が並べられ、神様と一緒に食事すると云う神人相伴の行事である。

お座は一番座から数番座まで参列する人員によって行われる。この御座には総代会の奉仕によって抽籤がなされ、特に大社から翁面が授与された。

終日御座の終りにしめる伝統の手じめの掛声が響いていた。

えーい　シャンく
も一つ　シャンく
よってさんごうシャンく
シャンくシャン
おめでとう御座います。

宗像大社剣道部　寒稽古終る

去る十二月二十五日から三十一日迄の一週間、毎朝七時から一時間、恒例の寒稽古が行われた。参加する者五十七名（内女子七名）。連日、暁闇をついて裂帛の気合がこだました。遠方の者は四村の道を馳けつけた。真摯敢斗、殆ど全員が皆勤した。

最終日の三十一日は、稽古のあと納会の試合をした。参観の父兄たちが僅々二カ年のうちの我が子の進歩上達に目を丸くして驚いていた。沢山の賞状と賞品が配られ、終って吉武儀市郎剣道部長、久保宮司の挨拶と激励があり、次いで直接指導をしている先生方から注意が述べられた。

みあれ祭　御座船の大漁!!

正月の四日、田島の辺津宮にお参りに来た大島の河辺繁十郎氏のお話によると

「まあ聞いてつかあさっせ。去年のみあれ祭の時の御座船をつとめさせていただいた宮地丸のことですたいな、あの船は大漁ばしましたばい。この暮れの二十日迄は沖ノ島には鯛はいてもあがりませんでした。そのために沖ノ島に行っている仲間からの依頼で、留守家族の者たちが中津宮様で御祈願はして貰いましたとたい。そしたらその翌日から〝喰い〟がたちましたもんね。丁度年末の鯛の高値の時に獲れるわ獲れるわ、みんなが御生祭に御奉仕させて貰うたけん、お神さまな、ようしてござらっしゃるとばい、と喜び合いました。中でも御座船の宮地丸は一艘の水揚げ高では最高でした。暮れの二十七日、荒天の中を誰も出漁していない時に宮地丸は出かけていたのです。お神さまが乗られた船じゃから守って下さるという考えだったかもしれませんね。どうやらこうやら無理をして網を延（は）えたところが、四時間位の間に今迄に村でも無かった程の大漁になったとです。宮地丸の船主は宮本歳丸といって、そのお父さんな中気で家に居らっしゃるばって、こらあお神様のお陰ばいうて涙を流して喜びましたけな。暮れに中津宮様と田島様に御礼の鯛が届いておりましたでしょう。正月にはいってからも三日の日に出漁して相当の漁をしておりますもんね。その他、御生祭の時に大島から出た供奉船の根栄丸、沖津丸、朝日丸、大島丸もみんな夫々大漁しとります。この次の御生祭には、何でもかんでも御奉仕の船が増えますばい。こう霊験があらたかにあることありゃ、信仰は信仰年も幸多からんことを祈る。

社務日誌抄

一日　総社地主祭　午前三時
元旦祭　午前六時、出光弘貴賞重松署長午前〇時に来社

四日　宗像郡水難救済連合会出席

六日　楠根役員来社、三苫権祢宜神湊お日待祭に出張

八日　県交通安全協会野田俊作氏他三十余名特別参拝

九日　西鉄川谷和三郎氏他十数名参拝

十日　島栖機関区参拝

十一日　八幡市文学散歩会員境忠二郎氏外五十名来社

十四日　若松交通局及び国鉄関係者二十余名参拝

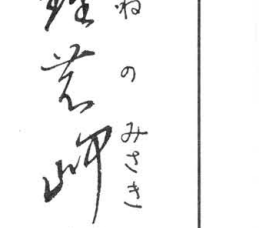
十五日　成人祭斎行、宗像奉祀会百名、八幡デカ会、遺賀郡成人一行参拝、中山出仕結婚の為退職

一位　六人抜　中野一夫（中一）
二位　五人抜　稗田茂人（中一）
三位　三人抜　小野春夫（小一）
四位　二人抜　神戸理孝（小六）
四位　二人抜　早川孝敏（小六）

最後に少年少女たちのお母さん方の奉仕による「おしるこパーティー」が開かれた。にこにこ笑顔で満腹する迄たべている表情が微笑ましい。尚、試合成績次の通り

鐘岬のみさき（完）

山下半可作
深田無庵画



よしないことをいうてしもうた、と興氏は笑った。いつにない大宮司の心境を聞いて祀官たちが緊張した。

「いや先程の話じゃが、災転じて福となるということもある。この面相のよい面を被って福徳延寿の舞を舞うたならば、さぞかし見て、それもうすれ、何となく母君の心労がかえりみられて、思わず口をついて出た溜息であった。しかし、お社の楼門が近付くにつれ、自身が浮き立つような気分になって来た。

やがて参拝を済ませた姫の一行は、行列も美々しく、お社の東側の釣川の土堤道を南の方へと向った。数年前、小早川秀秋が元服加冠の参拝の為にやって来たことがあった。

興氏はふと己れにかえった。

「おお、そうじゃ、そうして置いて、祭の時に奉納の舞を舞うという趣向にすれば、領内民心のためにも――、それがよかろう」

物音一つせぬ初夏の夜、大宮司邸の奥の間には遅くまで祀官らの相談が続いていた。

秋の初風

田島の放生会と志賀島のおくにち祭が済んだあと、いよいよ小早川秀秋と宗像伽羅姫との婚姻が執り行われることになった。こと数年間の目まぐるしい事件の数々を思い起して、興氏の胸には何ともいえぬ複雑な感傷が去来した。

すでに宗像宮の森には秋の初風が吹き渡り、社頭の高麗はぜをはじめ木々の梢が紅葉しはじめている。

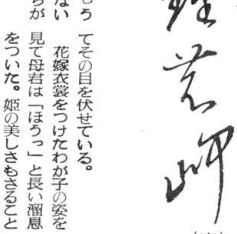
十月の十三日、絶好の秋日和である。今日は伽羅姫にとって宗像の地を去るお別れの参拝が行われる日である。思い出の網代駕籠に乗って社前の馬場にさしかかるとき、姫の顔には、もう早、曾ての憂愁のかげはなかった。傍の母君も喜びを包みきれない、といった表情である。姫も華じらいのなかにいとしさをもってその目を伏せている。

花嫁衣裳をつけたわが子の姿を見て母君は「ほうっ」と長い溜息をついた。姫の美しさもさることながら、ここ数年間の母親としての心労がかえりみられて、思わず口をついて出た溜息であった。しかし、お社の楼門が近付くにつれ、自身が浮き立つような気分になって来た。

やがて参拝を済ませた姫の一行は、行列も美々しく、お社の東側の釣川の土堤道を南の方へと向った。数年前、小早川秀秋が元服加冠の参拝の為にやって来たことがあった。

興氏はふと己れにかえった。

冥想にふけっていた彼の耳に、とうとうとお社の太鼓の音が響いてきた。



田島の放生会には今でも翁舞が喜多流能楽士の連中によって奉納されている。この時に使用される翁面が、かの鐘の岬から浮び上った奇しき因縁の所蔵であることはいうまでもない。（但し、宗像の社伝によれば、この翁面の出現を明応八年―1499―としている）

この面には古来延命長寿の信仰があり、祭の日に母親が初生児を参拝させてからこの面を拝ませて子供の長寿息災を祈る風習がある。この外、天明年間、悪疫退散のためにこの面を拝んで災厄を逃れ、罹疫を極めた流行病の平癒した者が多かったと伝えられる。そのために宗像のお社では、今でもその面をかたどった種々の社頭授与品を参拝者に出している。

その昔、鐘の岬の梵鐘引きあげの際に折れて残った鐘の竜頭は、その後それを使用して、大きさを合せて新たに鋳造された鐘が、鐘に余韻しょうしょうとして響き渡れ、碧嶽を極めた流行病の平癒した者が多かったと伝えられる。そのために宗像のお社では、今でもその面をかたどった種々の社頭授与品を参拝者に出している。

その昔、鐘の岬の梵鐘引きあげの際に折れて残った鐘の竜頭は、その後それを使用して、大きさを合せて新たに鋳造された鐘が、鐘に余韻しょうしょうとして響き渡れ、碧嶽を極めた流行病の平癒した者が多かったと伝えられる。そのために宗像のお社では、今でもその面をかたどった種々の社頭授与品を参拝者に出している。

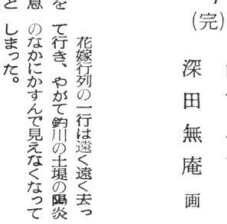
その昔、鐘の岬の梵鐘引きあげの際に折れて残った鐘の竜頭は、その後それを使用して、大きさを合せて新たに鋳造された鐘が、鐘に余韻しょうしょうとして響き渡れ、碧嶽を極めた流行病の平癒した者が多かったと伝えられる。

むすび

花嫁行列の一行は遠く遠く去って行き、やがて釣川の土堤の陽炎のなかにかすんで見えなくなってしまった。

白髪の老大宮司の肩に、折りからの微風にそよいだ木の葉がはらはらと降りそそいだ。美しく色づいた落葉の一枚を手にとって、興氏は曾ての「森の緑」の思索を回想した。

「わしも、間もなく落葉となるであろう。美しく散りたいものじゃ」



山下半可作
深田無庵画

八幡宗像会新年総会

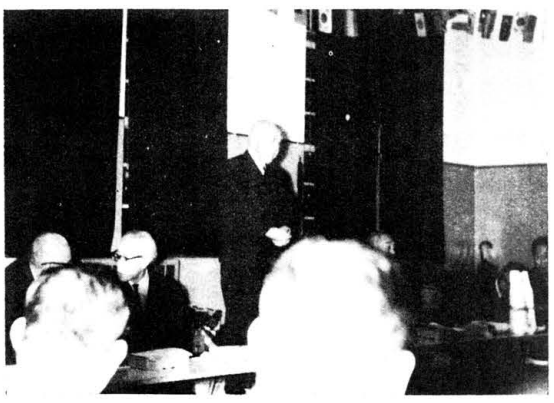
―八幡市大谷会館に於て―

八幡宗像会昭和三十八年総会は一月二十二日午后五時より八幡市大谷会館で開催された。この日北九州を襲った寒波は豪雪をもたらし夕方になると共に益々激しさを加え、市内の積雪は十五糎余りとなった。この大雪をいとわず集った人々は、遠路東京から出席された安永渡平会長始め六十余人。

会は先ず文化映画「鋼材」に始まり、鉄都八幡らしい雰囲気のだよう中を、安永会長の年頭の祝辞、宗像大社久保宮司挨拶、宗像会幹事の事業報告、会計報告、新入会員の紹介があり一同歓迎の拍手。引続き死亡会員の通知、一同心から亡くなった方々の冥福を祈る。続いて会食を共にし懇談会に移る。この時世話役の大和藤三郎氏より大社より特に八幡宗像会員へ持参した「一刀彫えと守り」の由緒説明があり、授与希望者で場内は一時騒然となった。手に持った一刀彫の楠木の香をかぎながら「宗像さんのあの楠木は未だ丈夫に立っていますか」「いやあの木に名前を彫りつけて叱られました……」と、そのかみの悪童の話はつきない。

人の心は童心に帰る時、何時しか氏神様の懐に抱かれるのであろう。彼を想い出を語る中に夜は何時しかふけていった。

窓から見える町の屋根くに深く積る雪にも「大雪は豊年の象」という言葉が知らず知らず飛び出す程、光の輝く初総会であった。



役場を訪ねて (3)

―福間町の巻―

福間町前で下車して北側に十数米入ると銅板葺の二階建が後の松山をバックとしてそびえている。これが福間町役場である。国道の雑踏から離れ、四囲はいたって静かで環境的には全く申分の無い処である。此処が昭和二十九年四月一日福間町、上西郷村及び神興村（除く大字村山田）が合併して以来新福間町の庁舎として新町建設の中心となって来た処である。

役場内に入って先ず気のつくことは窓口である。受付から左に行って收入役室、右に行くと相談室となっている。聞く処によると井原町長さんの方針で郡内でもいち早く役場事務の改善を計画して町民に対するサービスの改善と事務能率の増進を図るため窓口を改められたとのこと。

福間町役場職員は定員八名で本庁（総務、町民、税務、農業、建設、水道の六課と收入役室及び議会、教育委員会各事務局）、一中学校、三小学校に各々配置されて町の行政事務を担当している。

庁舎内を案内してもらって一巡したが、合併後に建築された旧庁舎、役場の新館及び最近旧福間競馬場から移築された新館で各職員が広く町民のサービスの改善と事務能率の増進を図るため窓口を改め事務を一歩離れると公民館講堂及び本館が隣接して、婦人会、青年団等の各種会合を始め町の諸行事に使用されていることは他町村には余り類のない事であろう。

福間町が町村合併後実施した事業は枚挙にいとまがないがその主なものを掲げると次のとおりである。

○災害復旧事業　二億一千万円
○教育施設建築　四千三百万円
○地方改善事業　三千二百万円
○漁港改良事業　一千二百万円
○水産事業　四千七百万円
○国土調査事業　八百六十万円
○消防施設事業　八百万円

なお、地方改善事業、上水道事業及び国土調査事業は年次計画事業として現在も尚続行中である。

この福間町は、北九州各市と福岡市の中間に位置する本郡の中でも、鹿児島本線の沿線にあるので、国鉄電化により一躍クローズアップされ、工場の進出、住宅団地の造成等目にその姿を変え、近時誘置された工場は名糖産業株式会社を始め六会社でその敷地は十万平米を超えている。

住宅団地も八幡製鉄が計画した職員住宅、県職員住宅等一年間に数百戸が建築されている他、近く福岡県及び福岡県住宅協会で二千戸以上の大住宅団地の造成が進められることになっている。

町当局も井原町長さんの指揮の下、全職員が一体となって着々と建設計画が進められ、庁内の事務改善に、庁外の建設事業にその実績は目覚しいものがある。今年初頭一般行政優良町として全国町村会及び県町村長会から表彰を受けられたことも真に喜べなるかなと、数々の表彰状を拝し心強さを感じつつ役場を辞去した。

× × ×

日本水難救済会福岡県支部

宗像郡連合会出初式

一月四日午前十時、福間町に於て開催された。生憎の荒天のため実際の出初は省略されて、南町の公民館に於て表彰式が行われた。集った会員二百四十余名、何れも背中にブイを染め抜いた揃いのハッピをつけ、潮やけ顔の頼々しい。来賓は県の警察部長をはじめ、県庁係官、県警外事部長、福岡海上保安部長、宗像警察署長、町村長代表を始め多数が参会した。

最初に国歌斉唱、次で海難事故三十回以上救済者、三十年以上勤続者、優良救難所等の順で表彰状が伝達された。

次に来賓の祝辞があった。何れも郡の団結とその活躍をたたえたが、中でも福岡海上保安部の藤井次長のお話しの中で、

○伝統ある"宗像水軍"の皿を承けておられる皆様の実績は全国でも有数のものであり、今後の活躍亦期して待つべきものがある。

○保安庁としては李ライン問題等の問題をかかえて、直接沿岸の救難作業にあたられる皆様との提携につき緊密を欠く点なきにしもあらざる点を反省すると共に、今後共尚一層至上目的の為に協力せられたい。よろしくお願い申し上げる。

旨の挨拶が印象的であった。因みに宗像水軍とは、主として吉野朝の頃から戦国末期迄活躍した宗像の水軍の事を指す。これは往時表向きは貿易船、内実は海軍の役目を勤めたといわれる。それはさ措き、当日会場で発表されたところによると、全国でも水難救済事業の最も盛んなのは福岡県であり、その中でも宗像郡は優秀であるとのことであった。

昨年中の事件は六十余件。救助人員は二百三十余名、財産に至っては一億三千三百万円にも上るということであった。

これらの活躍が、国や県からは全然助成金を貰わずに、わずかに漁業組合と町村の助成金によって賄われ、救難事業そのものが会員による無報酬の、然も身命を賭しての決死的な活動に俟つところと聞いて、その人間としての崇高なる犠牲的精神に唯々頭下がるばかりであった。

終ってから同町の広丸旅館別館に於て新年会が開かれたが、無心に談笑している「海の男達」を見て、これが玄海の荒波の中で命がけで人命を救助するのかと思った時に、筆者には彼等の姿が「神」に見えたのであった。

文化財防火演習実施

さる一月二十日、文化財防火デーに因み、当社では文化財防火演習を実施した。

午後一時十分出火想定

直ちに緊急電話で通報すると同時に、大社の自衛消防隊が出動。指定物件搬出班、化学薬品消化器班、動力消化班、の三班に分れ活動を開始した。

また緊急通報と同時に玄海町役場の出火サイレンが鳴渡り消防自動車五台が出動、次々に到着した楼門前の神池に水源を求め順次放水、七〇名の消防隊員の活動は実に敏速であった。

この間、西日本テレビカメラが演習の模様を収録二十七日午前八時四十五分より、「文化財を守ろう」と題して、上映された。

約三分の演習後、参加者全員整列、宮司の挨拶を受け終了した。

其後社務所にて、消防団役員、神社職員と、研究会を開催、今後の水利問題、防災対策などについて活潑な討論がなされた。

今回の演習結果は、当社自衛消防隊の出動が出火後二〇秒、動力エンジンの放水が一分二〇秒、消防自動車の到着が二分で、演習結果は上々であった。しかし実際に出火した場合は、演習の様に都合よく行かないのが実情で、平素※※防災に全職員が万全の注意を行い、非常事態についても対処出来る様常々消火器の点検、消火エンジンの手入れを行う様誓い合って閉会した。

町村往来

◇津屋崎町消防出初め式…8日午前9時津屋崎中学校

◇宗像郡町村合同出初め式……7日午前9時半、宗像町中央中学校。

◇養老施設慰問…福岡市養子小学校父婦人会の田中八重会長ら会員九人は7日宗像緑風園をたずね菓子、モチなど贈り、演芸を披露してよろこびたちを慰めた。

◇PTA会長研修会…9日午前10時、町村会館、県教育庁社会教育主事柴田広吉氏の「PTA運営と活動」について講話などがある。出席者は郡内小中学校のPTA会長。

◇玄洋ライオンズ・クラブ役員改選…8日津屋崎町で例会を開きつぎのとおりの役員の改選。なお例会は毎月第一火曜日福間会館、第三火曜日粕屋郡出賀町信用組合で開く。会員は五十一人。

▽会長井原巧彦（福間町）▽第一副会長長崎秀雄（古賀町）第二同寺島民平（津屋崎町）同中村正雄（福間町）▽幹事広渡作五郎（同）▽副幹事深田徳次郎（古賀町）▽理事日名子泰雄（福間町）ほか三人。

◇寄付…宗像町山田吉田市石衛門さんは亡妻の香典返しとして9日宗像緑風園に金一封を贈った。

◇剣道連盟宗像支部役員会…20日午後1時、宗像署。支部十周年記念行事。

◇自衛隊映画会…津屋崎町でつぎの日程で実施。自衛隊主催、向町公民館後援▽16日宮内八17日塩浜、梅津▽18日勝浦小▽19日勝浦浜。時間はいずれも午後7時一同10時。

◇福間町給協スポーツ大会…20日午前9時半、公民館。種目は囲碁、将棋、ピンポン、マージャン。資格は会員で会費百円。

（西日本新聞より）

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社 大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話東郷27番

消息

東京　河野敬員

と、編輯者各位の御清康を祈念します。

山梨県　網脇龍妙

新春の御慶びを申し上げます。昨年は色々御世話様になりました。本年も早速に貴大社の御神符を御送り戴きまして心から御礼申し上げます。

当車両に早速に配りまして、交通安全、ひいては会社の発展を念願し、編輯者各位の御清康を祈念します。

東京　通

新年瑞気の折柄益々御清昌の段慶賀申し上げます。

毎々「宗像」を御恵贈下され、殊に正月号を深き感興を以て拝読宗像の近き将来の大発展の為に努力下されおる事を心から感謝致します。昨秋郷里池田に帰省しました際初めて一人の娘をつれておる事でもありぜひ参拝する心組でありました処、案内者が鐘崎より江口浜を通り神湊より直ちに勝浦に出てしまい時間がなくなり、とうとう参拝出来ずはなはだ遺憾しました申訳なく思っています（中略）何分よろしく御尊斗の程願入ります。

熊本　九州産業交通（株）

他人の綿畠

宗像伝説　その二十四

孔大寺山の麓に荒谷という里があります。そこに昔から「綿畠」といって石ころばかりのような石の畠があります。何ころ土よりも石の方が多いくらいなので普通の作物はできません。僅かに綿だけが栽培されていました。

上の畑の持主は五郎作といって我慢の張った若者でした。自分だけがよければ他人なんぞはどうでもよいといった、よく世間で見かける型の人間でした。ふだんから「しかじかの事はこの俺が一番うまいんじゃ、そこいらの専門家もこの俺に聞きにくるくらいじゃからのう」と、高慢の鼻は高くなるばかりです。そんなのに限って、人はそうは思っていないのだということを知らっちゃいないのです。

「カラ威張り」「虚勢」で生きる人間なんて哀れなものです。それも段々と気が付けばいいが、それ迄の成り行きで定見のない生き方をしていると仲々直りにくいものです。五郎作もそんな人間でした。だからこの伝説のような結果になったのですね。

さて、五郎作の畠の下の畠の所有者は正太郎という温厚な年配の人でした。五郎作とは反対で、大層慾深の深い人でしたから何でも自分の自慢なんかしません。今時珍しい人と世間の人が噂していました。

さてさて、五郎作はかねてから畠の石が多くて作物が作りにくいので、こっそりと自分の畠の石を下の畠にぼんぼんと放り込みました。お互いさまだから自分も犠牲をはらって辛棒しようという気はさらさらないのです。

それがいつの間にか正太郎さんの知る所となりました。息子の勇太郎がかんかんになって五郎作の処に怒鳴りこもうとしました。正太郎さんがなだめました。

「まあまあいいじゃないか。オ孔大寺山の麓に荒谷という里があります。そこに昔から「綿畠」といって石ころばかりのような石の畠があります。何ころ土よりも石の方が多いくらいなので普通の作物はできません。僅かに綿だけが栽培されていました。

上の畑の持主は五郎作といって我慢の張った若者でした。自分だけがよければ他人なんぞはどうでもよいといった、よく世間で見かける型の人間でした。ふだんから「しかじかの事はこの俺が一番うまいんじゃ、そこいらの専門家もこの俺に聞きにくるくらいじゃからのう」と、高慢の鼻は高くなるばかりです。そんなのに限って、人はそうは思っていないのだということを知っちゃいないのです。

「カラ威張り」「虚勢」で生きる人間なんて哀れなものです。それも段々と気が付けばいいが、それ迄の成り行きで定見のない生き方をしていると仲々直りにくいものです。五郎作もそんな人間でした。だからこの伝説のような結果になったのですね。

さて、五郎作の畠の下の畠の所有者は正太郎という温厚な年配の人でした。五郎作とは反対で、大層慾深の深い人でしたから何でも自分の自慢なんかしません。今時珍しい人と世間の人が噂していました。

さてさて、五郎作はかねてから畠の石が多くて作物が作りにくいので、こっそりと自分の畠の石を下の畠にぼんぼんと放り込みました。お互いさまだから自分も犠牲をはらって辛棒しようという気はさらさらないのです。

それがいつの間にか正太郎さんの知る所となりました。息子の勇太郎がかんかんになって五郎作の処に怒鳴りこもうとしました。正太郎さんがなだめました。

「まあまあいいじゃないか。オ

やった。普通の作物には石は禁物じゃが、綿に限って石は最良の効力があるということじゃ。

これは深田無雇先生が仰言った事じゃけん、間違いなかん。明日三年に一度は小便をするげな。

それが大した肥料になるということじゃ。石ころ一つだってよそへ捨てることはならんぞ。今時の若い者は何でも骨惜しみするけん石が邪魔だなどというが、とんでもない料簡違いじゃ」

こんなことを話していた時、隣の畠では五郎作が一言も聞き漏らすまいと立っていました。

それから何日か経ちました。正太郎親子が綿畠に行ってみて驚きました。あれだけ沢山あった石ころが一つも見当りません。それにひきかえ隣の五郎作の畠はそこの山です。あさはかな五郎作は先日の正太郎親子の話をすっかり信じ込んでしまったのでした。あれから夜も寝ないで夢中になって隣の畠の石ころを運んだのです。

他人事ではないような気のする話ですね。

を頼む者は才に溺れる。いい考えがある」

息子の耳に何事かを喋きました。

或る日、正太郎さん親子は隣の五郎作の畠に出た時を見計らって出かけました。

隣の畠で五郎作が仕事をしています。正太郎親子は、わざと垣根の傍迄行って煙草を吸いながら大きな声で四方山の話を始めました。

「お父さん、近頃うちの畠は石が多くなりましたね。誰かのように何処かへ捨てましょうか」

「いや勇太郎、それはとんでもない事じゃ。この間、田島の宗像さまで農事講習会があってのう、その時の話では綿畠には石を入れようということじゃ」

(T)

宗像大社献詠 俳句作品集 (五)

津屋崎　古部　河童

磯釣の頬健康に著ぶくれて

大島村　板矢クニ子

島よりの欠航電話雪じまき

津屋崎　毛利　夜潮

金柑子の金炬燵布団の源氏色

津屋崎　渋田史外男

虹を眸に溜め来てつらら折り顫う

大　井　安部　重郎

久留米水天宮にて

幼帝の御霊浄らに雪の宮

津屋崎　久羽　文王

相撲の二人のほかはみんな雪

津屋崎　田中　哲二

雲裏に病める陽走り寒い漁村

大　井　吉田　杏子

極光の如く冬の陽雲に墜つ

津屋崎　西住喜三郎

雪月夜野が醜悪を皆潜む

大　井　吉田　衿子

大樽の芯まで熟えて年終る

津屋崎　井浦　良介

沖より風雪に構えなき玄関

東　郷　小野かをる

御手洗いつららの下に立つつつら

津屋崎　香立喜一郎

消防車に入魂式の芝枯れし

東　郷　小野角次郎

新年の瑞先日し沖の山

津屋崎　安部真佐子

故郷の駅の冬山逆光に

津屋崎　勝田　光一

首のない裸婦描き心の中の枯野

沖の島　前田喬之助

初産の孫健やかに初日の出

若　松　大高　岩吉

初参り娘晴れ着や福寿草

宗像信仰の化身 國学の大家 鈴木重胤大人 (四)

筑紫　豊

大人の宗像宿の旅行記を熟読すると、大人の敬神思想が、いかに真剣であったかがよく分かる。

大人はこの六月再行のとき、辺津宮で宗像三社の御霊代ともいうべき三個の神石を受けているのであるが、それについて、

その御霊とて、金幣をかねてこゝへのべ置れども、是は人作のものにて面白からず。

石にもあれ玉にもあれと、大宮司深田に立入つるに、御本殿に三の神あるをえさせたる。殊に辱く尊し。

大神の御手にならし、珍宝三の御玉をけふえつるかも

極光の如く冬の陽雲に墜つ

と、青玉の石を手に入れたことや、沖の島を望見た感激をも書きとどめている。海上四十九粁、海の狭霧にまぎれやすい乙の島影は、中津宮のある大島からでも眺めがたい日の多いのが常であるから、大人のこのときの喜びのほどが察せられる。沖の島は大人のためにいわぬばかりに、翌廿五日に

もゝきのふの如くはれわたりて、此神事を仕奉るに、心いさぎよくすべき事云はかりなし」と玄界灘のただ中に、その尊い姿を見せたのであった。

けふは家にても己日なりければ、例にまかせて、大神をばまつり奉らむをと、千里をへだてたるものから、妻子の心おのづから、けふの御祭にうち合ひて、いとめでたし。

妻と子の心やかふ皇神を

まつるゆにはに霊なりけり

と述べてその歓喜の情を吐露し、廿三日、中津宮でも、

雪月夜野が醜悪を皆潜む

と詠まれた。

大人の御手にならし、珍宝三の御玉をけふえつるかも

と、その歓喜の情を吐露し、廿三日、中津宮でも、

雪月夜野が醜悪を皆潜む

日時より御神事有り。御トに出て鏡をたまはせたりけるを猶三の神石を乞えて、わが守神といつく事となれりき。

と、神石に対する一種の執着を強調しているはかりか、

廿四日御祓ゝ詣んとて出たつ。ここは必豊受神ならむ

と、かねて思しもしるく、

国常立尊と云へたりけるこ

そ、日本紀伝にしろすむねに打合て、うれしき事なりけれ、青玉の石を賜はる。

島も近く見えわたれい。

言とはなよひもすべくおきつしま鶴居にはれてさやけかりけり

心ゆくまで拝み奉りて、浜辺をめぐりけるに、自然の夫婦石をえたるもをかし。

軍胤は、ゆくりなく拾いえた石を夫婦に見立て、そこに神意のはかりをを感じ悦んでいるのである。

かくして大人は、自身に神を崇敬したばかりでなく、人に向っても常に神徳を讃美し、敬神尊祖の思想を鼓吹したのであった。その産物として、新らしく神社を建立したり、または廃絶に帰した古社の復興を計ったことが少くなかった。

（つづく）

皇位継承と祖宗の神器 (一)

葦津珍彦

若松市兄弟文庫発行叢書の一つに「皇位継承と祖宗の神器」と題する小冊子がある。これは憲法上に於て、皇位継承及びその信仰のシンボルである神器がどう扱われているかを、旧憲法から新憲法に移行される際にどう解釈されたか、その中で二つの問題点を探り上げてわかりやすく論究されている。

広く識者の参考に供する為、敢て同冊子より転載した次第である。

日本国憲法は、その第二条において、皇位継承について規定しているが、それは古領下の異常な政治情勢を反映したためか、外国の（王朝制度を有する国の）憲法と比較して、いちじるしく異るものとなっている。日本の天皇制は、日本独自のものであって、必ずしも外国憲法の通例にしたがはねばならないものではないけれども、少なくとも次の二つの異常なる点については、その当否を十分に研究し検討する必要があると思う。

第一の異常なる点。世襲の君主または国王を建てる国の憲法には王位継承に関する条規は、憲法の本文において慎重厳格に明記するかまたは憲法典と同等の根本法において規定するのを通例とする。しかるに日本国憲法においては、皇位が世襲のものであるとの一条件を示しただけで、皇位継承の具体的規定は、すべて一般法律と同じく国会の議決に一任することとしている。これは憲法改正のような重い手続をとらないでも、国会の過半数決議だけで、皇位継承の修正変更が、安易に行なわれるようにしたものであって、諸外国に全く例を見ないものである。皇室典範は、一般法律と同じものとされている。その現行皇室典範に定められている継承した貴重な原則であるが、それはただ一般法律として認められているにすぎない。憲法という点からみれば、世襲主義の原則に変更さえなければ、生前の退位、女帝の即位等をみとめるような法律の修正もできる。現にそのような修正を主張する意見もある。

さらに進んで、女帝をみとめるだけではなく、世襲主義を拡張して、女系血統主義をもみとめるとの説も出て来る。いまの憲法を解釈して「天皇象徴の制度そのものをみとめない原則、等を定めている。これらの原則は、いづれも永久に廃止するのには憲法を改正しなければできないけれども、個々の具体的な天皇の廃立は国会の過半数決議だけで、いつでも行いうることである」というような説も現われてくる。

皇位継承法が、このように安易に考えられている例は、世界のいづこにも見ることのできないものである。ベルギー、ノルウェー等においては、王位継承法は、憲法本文において明確に規定されており、スエーデン、デンマーク等においては、形式的には憲法典と別の王位継承法を有っているけれども、その修正改変については、憲法の改正と同等の重い慎重な手続を要することとなっている。

王位継承法を重んずることは、王位そのものを重んずる所以であって、王位そのものを重んずる精神を明らかにするためには、当然に皇位継承法を重んずることが必要であろう。

（つづく）

人生の附録

白雲先生の怪気炎　（其の三）

久し振りに脈をとったところが主治医が「まだあとがあるから大丈夫だ」とのご託宣。胃袋と鉄別して三力月余り、手術中は稀にみる異常体質が祟って二昼夜あとのない命のせとぎわをどうやら切り抜けた今日、角力取りの土俵ぎわではないが、あとがあるとは解せない。稀にみる偉材にあらずして稀にみる異質では、主治医に匙を投げられなかっただけが拾いもの。診断まで大目付の役を忠実につとめる老妻が側で難解な答案に出会ったような顔をしたり。忍に徹した医術のおかげで生命をとりとめた。今更に「みんな私が悪いのヨ」と三十年さん〴〵苦労をかけた山の神にお詫び言上もおとなげない。何と言われても黙って聞いてわずかに亭主の貫録を保持しているのだけ。

ところで聊か意を安んずるに足る（？）類例を大阪で見つけた。旅はすべきもの、どこでどんな拾いものがあるか知れない。若手のO君を伴い大阪でY氏と会食した折、胃潰瘍手術では一年先輩のY氏の手術物語にヤブ医者連発の懐古が飛び出し、更にその友人が最近胃癌の手術を受けて同様の失言が瞑露されて、同類まことに巷に満ちているのに安心。いや自慢にはならぬ話だけに、O君を証人として老妻に言い訳をする料見はさらく持たぬ。医は恐術なり。の興味を確認しただけ。

東京の宿では食事の都合もあるが、以上、腸もしぶく営養吸収の職分に若干の消化作用の兼業をはじめた様子。あまり無茶に食ってくれるなとの陳情もあってか、この頃口舌も自重してきた。手を切るわけにいかぬ口舌地帯と腸膜地帯の宿命は哀しい。この哀き宿命は同時に小生と山の神との人生的宿命でもあり、吹けば飛ぶような情ない八百八橋の貧乏王将ぶり似た異端者のわき役を拾ったものだと、心中の不満も少くないだろう。「コボシ給うな、戦場で死はなかった為に御身も未だ人保留となって今日に至っているではないか」と多少恩きせがましい説論も頭をもたげてくる。胃袋決潰は戦場生活の罪だ。

今は常々なる？不具者である。身体障害者として政府の特別な保護を要請する気持はないが、時にその言い分けを必要とする舞台に出会わないとも限らない。セチ辛い世の中だ。手や足の故障とちがってまさかの時に、いくら身体障害者だと自己弁護しても、外見では胃袋の脱落が見きわめられない不完全な人間の眼には、飢渇者たる主治医の証明書が是非とも必要。次の診察日には主治医の証明書をもらっておこう。

日本の民主々義

戦前の場合（その一）

天野　健一

民主々義と云う言葉は戦後日本人の合言葉となっているが、然らば我国には戦前この主義はなかったかと云うと、一貫した主義ではなかったにしろ一部の人には矢張り此の思想はあったと言ってよい。

一八五八年（安政六年）長州の志士吉田松陰が政治犯なるの故を以って首を刎ねられた、其の死に対する宣告文によると彼松陰は「狂父の言」と云う、一書を主家に差出している、之は主として毛利家の改革意見である。家老の子は無能であるとも家老職に在りつけるが、足軽百姓の子は如何に傑才であっても足軽百姓として満足せなければならない、之は人道に反する。人は各々好き道へ進む可きだ、職業も自由に選べ斯くこそはじめて世は進歩するのだ。人がよくなれば自分もよくなる即ち民主々義に近い思想だった、改革意見を述べたが為にあわれ刑場の露と消えた松陰は、家系と家禄を重んずる封建制度破壊の烽火の出現を挙げた薩摩の志士であったと思う。

徳川慶喜は十五代将軍であったが非常な開明的思想の持ち主で此保の幕府政治では国内の争に終始する許りだ。国内を統一し外国と肩を並べる為には大政を奉還して国政を一本化し天皇政治を行わねばならぬとして、三百年の歴史を捨て、遂に之を断行した、慶応三年（一八六四年）十月十四日である。幸にも明治天皇は慶応四年三月紫宸殿の御儀として五ヶ条の御誓文を賜った、一旦泥にまみれたデモクラシーを公論政治の中心理念として取り上げさせられ維新の大成を明示遊ばされた、陛下は此の本旨に基き諸侯や公卿や各藩の徴士を一堂に集め彼等の意見を充分聞し召された上、明治維新の大方針を御決裁遊ばされた。斯くて明治四年（一八七一年）には廃藩置県が行われた、この前後から我国は諸外国との交通が一段と頻繁となり西洋の文化が盛んに流入された、即ち之等によって明治維新の偉業が成されたが、当時之に当った明治の元勲と言われる多くの人々は、矢張り自己と家族其の後裔の隆昌を主体とした個人主義者が殆んどであった。

こうした中から本当に自己を滅却して衆人の為に戦った民主々義者の三三名を拾って見ると敬天愛人の西郷隆盛は別として、

土佐の板垣退助がある。彼は日本最初の政党政党を起し後改党して、自由党の建立者となり総理にもなった程の大人物だが、世は正に自由民権時代で政府要人最高指導者と彼の主義主張は相容れず彼は下野して土佐に帰り、「よし南海苦熱の地でもいさな自由の風が吹くと云う民謡を作った、当時此の歌は全国津々浦々までも広く行き亘った。高知に立志社を起し青年と共に議会開設を称え自由民主思想を植えつけた。

岐阜の中教院で刺客の為に遭難し晩年は孤独に過したが彼は一世の名文句「板垣死すとも自由は死せず」と絶叫して波乱の一生を閉じた。赤貧洗うが如き中にあったにも拘わらず寒志である殿堂を返上して一代革命論を実行した。木戸孝允、伊藤博文等を初めとする幾十人の子孫が華族に列し特遇を受けていた事は何としても合点の行かぬ事である。板垣は真に見上げた人物であった。

編輯部より

永らく御愛読をたまわりました小説「鐘の岬」は、今月号を以って完結致しました。

鐘の岬にまつわる祇鐘伝説と血腥い戦雲急なる室町時代を背景に、当時の豪族宗像大宮司興氏の一時期を描いたこの物語りは、勿論フイクション以外の何ものでもありません。しかし、史料からは興氏が宗像一円の平穏を祈って努力されたであろう事は想像に難くありません。

この物語りが宗像郷史を始め古絵図等出来得る限りの史料を駆使して書かれている為、事実と混同されてよく照会に接しますが、内容については御容赦願いたいと存じます。

尚、次号からは同じくこの時代の末期に生きた宗像大宮司家の末裔宗像四郎氏貴の一代記を連載致します。

氏貴の生涯は波乱万丈に富み、宗像宮中興の人であり、政治に心を致し民衆をよく安路しかと伝えられます。彼は足利時代の天文年間に生れ、天正年間頃秀吉が関白となり豊臣秀吉となった翌年に生涯を閉じていますが、その間の人生五十年を山下半司氏は一大スペクタクル、ロマン小説として余す処なく書き尽しています。さし絵は前号に引続き深田無庵画伯が担当いたします。乞御期待!!